

成果報告書

地域文化倶楽部(仮称)創設支援事業

団体名	大津芸能倶楽部プロジェクト		
所在地	滋賀県大津市	設立年	2021年
運営主体	大津芸能倶楽部プロジェクト		
事業目標	<p>古くから芸能にゆかりのある滋賀県大津市の歴史や文化を、芸能の鑑賞・実践を通じて主体的に学ぶ機会を提供することを目的に「大津芸能倶楽部」を創設し、昨年度から活動している。</p> <p>今回、2年目の取り組みとして、持続可能な文化芸術活動の環境整備を行うため、下記の3つの課題の解決を目指した。</p> <p>①保護者の関心・理解度向上 ②行政や地域、学校との連携強化 ③稽古(活動)の効率化・経費削減</p>		
きっかけ	<p>古くから芸能にゆかりのある滋賀県大津市の歴史や文化を、芸能の鑑賞・実践を通じて主体的に学ぶ機会を提供したいという想いで発足。</p> <p>「フと〜 出会い、自分でやってみる」をテーマに、フの〜 表現に触れ、表現方法を学び自ら表現する機会を子供たちに提供している。</p> <p>この活動を通じて、子供たちの自立心・責任感の芽生え、問題解決能力の習得、自己肯定感の向上に寄与すると考えている。</p>		
団体・組織等の連携			
活動場所	<p>大津市内の小中学校:出張授業や鑑賞会、ワークショップを実施</p> <p>大津百町館(市民有志が運営する築150年以上の古民家):稽古や発表会を実施</p>		
活動概要	<p>今年、以下のスケジュールで活動を行なった。</p> <p>5月～7月:鑑賞の機会の提供と参加者募集</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.大津市立打出中学校1年生に向けた活動紹介&鑑賞会の開催(5/19) 2.行政や学校、地域と連携した情報発信の実施(通年) 3.参加希望者とその保護者、地域の方々に向けた鑑賞会&ワークショップを開催(7/30) <p>8月～11月:プロによる稽古と発表会の実施</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.大津百町館(地域の施設)でオンライン稽古を主とした稽古会の実施(8-11) 2.大津百町館(地域の施設)で発表会&鑑賞会の開催(11/5) 		

○本事業による成果

今年度の事業目標として掲げた以下の3つの課題について、それぞれの成果を示す。

①保護者の関心・理解度向上

保護者の関心を高めるため7/30に実施した無料体験会では、参加者の全員が”生で見て面白かった”と回答した。

また、子どもたちと一緒に参加した保護者からは、「講師の方々が子どもたちの質問に親身に答えてくれる態度が良かった。」「講師の方に自由に質問できたので、不安がなくなった」等の声をいただいた。

今回の参加者の中には、「実は昨年も子どもは参加したがったが我慢してもらった」という声があった。

このことから、

- 1.保護者に対して、「生で芸能に触れる」という満足度の高い体験を提供できた。
- 2.保護者に対して、「学校外の指導者」の安心感を伝えられたことで、子供を通わせる不安が払拭できた。
- 3.活動を継続すること自体が、保護者の関心や理解度の向上につながられた。

の3点の成果が得られた。

②行政や地域、学校との連携強化

今回、昨年同様天津市立打出中学校の1年生(250名)を対象に、活動紹介&鑑賞会を実施した。

2年目ということもあり、準備や本番、その後のやりとりでも、学校側に負担をかけることなく、スムーズに実施することができた。満足度については、全体の80%以上の生徒が”生で見て面白かった””もう一度見たい”と回答し、全体の10%以上の生徒が、”自分もやってみたい”と回答した。

また、情報発信の面では、(メディア)行政機関の記者クラブ約30社に向けたプレスリリースや、(行政)滋賀県庁や大津市役所内、(地域)学区内の自治会(約100件の自治会)、(学校)学区内の小中学校(小学校3校中学校1校)の各方面において、それぞれチラシ配布やポスター掲示に協力いただくことができた。

さらに、滋賀県庁の職員からの提案で、”子ども体験向けリーフレット”に掲載いただけることとなり、このリーフレットがきっかけとなり、大津市外(彦根市)からの参加にもつながった。

このことから、

- 1.学校と連携することにより、子どもたちと”生の芸能”との出会いの場を作れ、”自分もやりたい”という関心を高められた。
- 2.行政や地域、学校と連携することにより、地域に根ざした情報発信が可能となった。
- 3.外部団体と連携することにより、当初想定していないプラスの効果(今回の場合、市外の参加者)を得ることができた。

の3点の成果が得られた。

③稽古(活動)の効率化・経費削減

11/5の発表会に向けて、大津の参加者と東京の講師をオンラインでつないで稽古を行った。

今回は、4名(落語2名、コント2名)の参加があり、習熟度に合わせて各5~7回の稽古をそれぞれ実施した。稽古の前後や発表会後のアンケートでは、「東京で活躍するプロから気軽に稽古が受けられて嬉しい」「丁寧に教えてもらえて嬉しかった」など肯定的な声が多かった。

オンラインの稽古は、個別に行うため、個々の性格に合わせたペースで進められたので、大勢に向けて実施するよりも細やかな対応ができるので取りこぼしがなく、”芸能の稽古”との相性は良いと感じた。

また、今回は、大津市外(彦根市)からの参加者がいたため、大津の稽古場を使わず、講師の自宅と生徒の自宅を直接つないで指導する機会が複数あった。その際も特に不便がなく、スムーズに稽古を行うことができた。

このことから、

- 1.オンラインを使うことで、活動の経費(講師や生徒の交通費等)を削減できた。
- 2.”芸能の稽古”を個別・オンライン指導することで、稽古の効率を高められた。
- 3.オンラインのため遠方でも稽古に参加でき、移動時間の短縮につながった。

の3点の成果が得られた。

○児童・生徒への指導に関する工夫

5/19学校での鑑賞会や7/30無料体験会では、昨年同様、単に芸能を学ぶのではなく、自分の住んでいる地域とのゆかりを伝えた。このことによって、子どもたちが芸能全体に親近感が湧き、モチベーションにつながった。2年目ということもあり、既にそのことを理解している生徒もおり、活動継続の効果を実感した。

また、オンラインの稽古では、プロと参加者の一対一の稽古ではなく、スタッフも入った3人での稽古という形にした。

スタッフが間に入ることで、プロに直接聞きづらいことを気軽に聞ける雰囲気を作れ、緊張しすぎない空間を作ることができた。

○運営上の工夫

少人数のスタッフでも十分な活動を行えるよう、新たな仕組みを0から作るのではなく、行政や地域、学校と連携し、既存の仕組みをうまく使いながら活動できるようにした。

特に情報発信の部分では、行政や地域、学校には既に発信手段があるので、その力を貸してもらえるように、担当者へ協力を仰いだ。昨年、NHKの地域ドキュメンタリーに取り上げられた影響もあり、初年度に比べると理解が早く、スムーズに連携することができた。

また、地域団体が安価で貸し出してくれる施設でオンライン稽古を行うことで、

・「子どもたちも安心して通え、かつ、地域の方々からも応援の声をいただく」というアナログのメリット

・「東京の講師から気軽に稽古が受けられる」というデジタルのメリット

双方のメリットを活かした。

○継続的な運営に関する課題・展望

今回、2年目の課題として、①保護者の関心・理解度向上②行政や地域、学校との連携強化③稽古(活動)の効率化・経費削減の3つをあげたが、2年目を終えてみて、この3点は、継続すればするほど解決されていく問題だと強く感じた。

実際、保護者の理解が向上したことにより、去年は2組だった参加者の数が4組と2倍に増え、行政や学校との連携もスムーズとなり、稽古もより効率的に行うことができた。

そのため、今後の課題として挙げられるのは、“続けていくための”資金をどうやって得るか、という点である。

学校での鑑賞会については、文化庁が別で実施している事業(文化芸術による子供育成事業等)を活用することで、継続は可能であるが、それ以降の部活動の部分については、保護者への費用負担が避けられない。

ただ、既に部活や塾で費用がかかっている現状では、“新しい習い事のためにお金を使うかどうか”、という受け止められ方になってしまい、費用負担をお願いした場合の活動継続は、難しいと感じた。

また、行政や地域に関しても、現在は既存の仕組みの中で無償で協力いただいている形だが、行政の予算の中からこの活動を応援してもらったり、地域から寄付を募ったり、という形を模索はしたが、特に“公平性”の観点で、一団体の声を聞いてもらえる状況ではなかった。

昨年に比べると、部活動関連のニュースを目にする機会も増え、理解は進んでいるとは言えるが、行政や地域、保護者全ての主体が、地域移行の問題を自分ごととして真剣に考え、費用負担も受け入れる、という段階にまでには達しておらず、来年度同じ内容で活動を続けることは難しいと感じている。

○令和5年度からの学校部活動の段階的な地域移行に関する方針・提案

前項にも記載した通り、継続するためには資金が必要になるが、現状、子供たちを取り巻く環境のどの立場の方々も、費用を負担する余裕がない。そのため、国が主体となって、地域移行の重要性を自治体や地域、家庭に働きかけていただくとともに、一定程度の資金を支援する体制が必要だと感じている。

来年度以降、吹奏楽などの既存・大規模な部活動の地域移行を進めていただくことで、全国的な理解は進むと思うので、そういった動向を見ながら、今後の活動を検討していきたいとも思っている。

ただ、この枠組みのおかげで、この2年間、地域の芸術団体だからこそ行える“新たな文化部活動”が実施できたのは確かだと思うので、この期間で得られた知見を、今後の多様な子供たちの文化部活動に活かせるよう、諦めずに活動の道を探していきたい。

2年間、大変お世話になりました。またこういった取組をご支援いただく機会がありましたら、よろしく願いいたします。

○令和4年度 取組状況等

参加者	人数等	5/19鑑賞会:大津市立打出中学校中学1年生・250名 7~11月活動:落語2名、コント2名、合計4名
	学校名	5/19鑑賞会:大津市立打出中学校 7~11月活動: 落語2名(大津市立中央小学校5年生、大津市立打出中学校・2年生) コント2名(大津市立平野小学校6年生、彦根市立南中学校・2年生)
	募集方法	1.大津市立打出中学校1年生に向けた活動紹介&鑑賞会の開催(5/19) 2.行政や学校、地域と連携した情報発信の実施(通年) ・滋賀県庁や大津市役所内でのチラシ配布やポスター掲示 ・記者クラブ約30社に向けたプレスリリース ・学区内の自治会(約100件の自治会)へのチラシ配布やポスター掲示 ・学区内の小中学校(小学校3校中学校1校)でのチラシ配布やポスター掲示 3.参加希望者とその保護者、地域の方々に向けた鑑賞会&ワークショップを開催(7/30)
指導者	人数等	①メインの指導者:全国的に活躍する芸能実演家5名 ②補助指導者:芸能制作経験者1名 ③当日運営スタッフ:1名(地域団体から参加)
	募集方法	各芸能実演家から紹介。 今回、スタッフとして、地域団体からの協力が得られた。
参加者の移動手段		徒歩、自転車
活動費用	指導者謝金等	指導料:5,000円/1回
	その他	稽古場、会場費:2,000-5,000円/回(近くの古民家を活用、参加人数に応じて変動) 宣伝費、旅費交通費、その他:100万円/年
活動財源	会費	昨年度、今年度は0円 今後は、数千円の会費を集めることを検討
	その他	昨年度、今年度は地域文化倶楽部(仮称)創設支援事業の委託費より捻出。 今後は、公演収益や寄付、その他手段を模索する。
スケジュール	基本活動	8月-11月:発表会に向けた稽古を実施(オンライン) 11月:発表会の実施
	年間	5月-6月:芸能鑑賞会・ワークショップへの参加 7月:無料体験会、入部 8月-11月:発表会に向けた稽古を実施(オンライン) 11月:発表会の実施
保険加入等		スポーツ安全保険:年間800円/人(講師も加入)

【活動の様子（写真添付）】

(5/19)大津市立打出中学校1年生に向けた鑑賞会の開催

落語 → 常磐津 → ひとりコント



(7/30)参加希望者とその保護者、地域の方々に向けた鑑賞会&ワークショップを開催

① 鑑賞会（落語→ひとりコント→常磐津）



② ワークショップと質問コーナー(常磐津:一緒に語る/コント:一緒に演じる/落語:一緒に小唄/ 質問コーナー)



(8-11)大津百町館(地域の施設)でオンライン稽古を主とした稽古会の実施(iPadを使用)



(11/5)大津百町館(地域の施設)で発表会&鑑賞会の開催

① 子供たちの発表会(落語→ひとりコント→落語→ひとりコント)



② 鑑賞会（落語→ひとりコント→常磐津）/集合写真

